

再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム  
(幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム)  
研究開発課題評価(令和6年度実施)  
事後評価結果報告書

研究開発課題名	立体組織の形成過程を最適化するモデルベース培養法の開発
代表機関名	金沢大学
研究開発代表者名	奥田 覚

【評価コメント】

マウス ES 細胞から誘導した眼杯オルガノイドの形成において、眼杯と眼胞の数や形態のばらつきが生じる機序を解明する独自の成果を創出した。立体構造を制御するために必要な組織力学機構と因子を同定し、構造化照明顕微鏡と原子間力顕微鏡を組み合わせた新規の SIM-AFM 技術を開発した点は評価できる。7 報の論文を発表した点は優れた取り組みとして特筆できる。今後、オルガノイド作製技術のさらなる進展に向けて、オルガノイド研究者との共同研究などを行い、本研究で得られた成果の汎用性や成熟度を高めていくとともに、知財の確保が期待される。